

神戸山手グローバル中高

# 共学化の背景に多文化共生の「グローバル教育」

5月14日、学校法人濱名

山手学院は関西国際大学尼

崎キャンパスにて学校説明

会を開催し、同法人の教育

理念と、神戸山手グロー

バル中学校高等学校にお

ける教育改革の現状につ

いて説明した。

冒頭で登壇した濱名篤

理事長は、神戸山手学園

の102年の歴史と、2

020年の法人合併によ

り誕生した同学院の歩み

を紹介した。濱名氏は、

法人全体の教育ミッショ

ンとして「他者を尊重

しつつ、主体的・能動的

に自らの人生を切り拓

く」ことができる人間を

世界に送り出すこと」を

掲げ、その実現に向けて、

・コミュニケーション

・コンシダレーション

・コミットメント

の「3つのC」を重視して

いると語った。

これを背景に関西国際大

学では、「自律性」「社会的

貢献性」「多様性理解」「課

題発見・解決力」「コミュ

ニケーション力」「専門

知識・技能の活用力」

の6項目をルーブリッ



平井正朗 校長

## “成長実感”ある学校づくりへ

ク評価で測定する「K  
U I s学修ベンチマー  
ク」を取り入れ、学生  
の成長を可視化するな

ど、独自の教育を推進して

いる。その成果の一つとし

て、文部科学省の全国学生

調査・ポジティブリストで

は、540大学中、上位

15%に入る項目数が全国最  
多となっている。

続いて、神戸山手グロー

バル中学校高等学校の平井

正朗校長が、同校の現状と

教育活動について報告した。

同校の最大の特徴は、多

文化共生が日常化した学習

環境にある。海外ルーツの

生徒が全体の36%を占め、

17カ国の生徒と7カ国の教

員が在籍している。

また、同校の英語教育で

は、フルタイムのネイティ

ブ教員12名を含む20名超の

教員が授業に関わり、家庭・

情報・音楽などを英語で学

ぶイマージョン授業を展開

し、今年から数学・理科も

通年実施している。

グローバル選抜探究コー

スでは、日本人教員とネイ

ティブ教員によるダブル担

任制を採用し、GTECな

どを通じてCEFRに基づ

く4技能評価も実施してい  
る。これらが功を奏し、中

学1年終了時にはほぼ全員

が英検3級レベルに到達。

中学3年で2級や準1級、

高校1年終了段階ではほぼ

全員が2級レベルをクリア

するなど、大きな成果を挙

げている。

生徒の主体性を重んじる

校風は、クラブ活動の実加

入率96%、延べ加入率14

0%超という数字にも表れ

ている。複数クラブへの加

入を認めていることも特徴

だ。全24クラブのうち4分

の1が全国大会に出場して

おり、陸上部とスポーツク

ライミング部では日本一に

輝いた。

さらに同校は、文部科学

省の「DXハイスクール」

に認定されるとともに、全

国で3校のみが採択された

「EDU-Port（エデュポ

の1校にも選ばれている。

不登校生徒への対応で

は、大学の心理学部と連携

したカウンセラーの配置

や、ICTを活用した個別

最適な学習を可能にする学

習支援室も完備している。

学校評価でも40項目に対

し、4年連続で90%以上の

肯定的回答を得ており、保

護者の回答率は95・2%に

のぼる。

最後に平井校長は、学校

選びについて「成長実感を

期待できる学校かどうか

重要です」と述べた。

説明会の締めくくり

は、ネイティブ教員陣が紹

介された。Cheska K

imberly先生は日本

語と英語を交えながら、イ

マージョン授業を通じて英

語を自然なコミュニケーション

ツールとして定着さ

せ、多文化共生の環境の中

で世界を広い視野で見つめ

られる人材を育てたいと語

り、同校が目指すグローバル

教育の可能性を印象つけた。